

【 東大和市 リアルタイム事務事業評価調書①
地域社会人材活用 事業 】 記入日 令和 5 年 10 月 10 日

基 本 情 報 (A・B)

A) 施策、根拠法令等

担当部署	部	教育部	課	教育指導課	係	指導係			
基本施策	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり				事業種別		市単独業務		
					継続・新規		新規事業		
分野別施策	施策1 - 3 学校教育【重要施策】						事業予算額		
	-						1,500 千円		
展開方向	☒ 生きる力を育む教育の推進				予算科目	会計		一般会計	
	☐ 快適で充実した学校生活を支える教育環境づくり					款	10	教育費	
	☒ 学校と家庭・地域との連携の推進					項	1	教育総務費	
根拠法令等 (あれば)	学習指導要領				目	3		教育指導費	
						事業番号		16	

B) 事業内容・対象

市の魅力向上に寄与する事業		○	人口減少抑制に寄与する事業		○		
事業概要 (何をやる事業か)	小・中学校が社会に開かれた教育課程の目的に沿った授業を展開するために、専門知識のある講師等の派遣を依頼する。児童・生徒が専門性をもった講師から学ぶ機会を設けることにより、児童・生徒が主体的に課題に向き合い、解決していく能力を身に付けさせる。						
事業の対象	全小・中学校						

現年度(令和5年度)に実施中の事業について(C・D・E・F)

C) 目標・目指す状態 ※市民意識調査の結果を目標値にはできません(施策評価の目標であるため)。

※「〇〇意識を高める」「理解を深める」等といった成果が測れないものは不可とします。必ず効果が数値化できる目標にしてください。

目標・目指す状態		単位	目標数値
①	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合	%	80 (事前アンケート数値71)
②	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合	%	70 (事前アンケート数値60.1)
③			

D) 前年度と変更した点がありますか? ※事業の実施を経て、見直し、解決すべきだと考えたことを元に変更した点

☐ 有	変更した点→	新規事業のため
☒ 無	無の理由→	

E) 見直し状況 ※変更(見直し)については、どの程度進んでいますか

F) 令和5年度中の進捗状況(予定含む) ※進捗状況はなるべく時系列に沿って記入してください。

①	3、4月、校長会等において周知
②	4月、事務担当説明会の実施
③	7月、学校運営協議会委員研修会にて周知
④	随時、各校より講師依頼書等の提出
⑤	2月、実績報告書の提出
⑥	
⑦	
⑧	

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書②

【 地域社会人材活用 事業 】 記入日 令和 6 年 3 月 27 日

実績報告・事業分析

A) リアタイ評価会議での意見・助言等

- ① 二中でSDGsの研究を行ったところ、学力も上がったという報告を受けて、市の方から「学力向上のために何かやってほしい」と教育委員会に伝えたという経緯もある。
- ② 目標設定を「勉強が楽しいと感じる児童・生徒の割合」とした方が良いのではないかな。
- ③ 本事業における各学校の目的や目標を明確にもらったほうが良いのではないかな。または、市の方で本事業に関連するパンフレット（指針）のようなものを作成してもいいのでは。

B) 上記意見を受けて、対応したもの 及び 参考としたもの

本事業を通じて何をを目指すのか、学校間と共有を図っていくために、ScTN質問紙を令和6年度より活用する。

C) R5年度の実績（事業の実績を示す数値 又は 事業の目標としたものの結果）※市民意識調査の結果は不可とします。

実績の説明		単位	目標値	R5実績値	【参考】R4実績値
①	地域社会人材を活用した事業数	件	30	37	
②					
③					
数値として出せる実績が得られなかった（下記にその理由を記載してください）					
数値結果がない理由					
R5実績は去年と比べて		☐ 向上した ☐ 例年通り ☐ 低下した ☒ その他			
		左記とした理由 又は 分析等（向上・低下した要因等）： <向上した要因> 新規事業で比較ができない			

D) 分析（令和5年度の実績を踏まえて）

↓該当する1つに○をつけてください↓

①この事業の有効性は 費用対効果（コスパ）、執行体制の状況、手法として最適か 等	○	高かった	普通だった	低かった
①の理由：学校自らが地域社会人材を選定することができ、社会に開かれた教育活動及び特色ある教育を推進することができた。				
②この事業に対する市民のニーズ、反応は 市民の反応等を踏まえて回答してください。	○	高かった (良かった)	普通であった	低かった
②の説明：六小での命の授業の実践は、東京都教育委員会における外部講師を活用した性教育のモデル例として紹介された。第三小学校では図工の時間に作った焼き物（陶器）に、伝統文化体験での生け花を活け、展覧会において展示し、「地域の方と思い出に残る展覧会を楽しもう」と題して、地域の方々と展覧会の成果を共有する時間を設けるなど、地域と学校とのつながりに活かされている。				
③この事業における市民協働・共創の余地は ※「市民協働」及び「共創」については別紙1をご確認ください。	○	多くの余地がある	余地がある	余地がない
③の説明：コミュニティ・スクール委員等と協働して教育活動の充実を図ることができた。				
④この事業が今後市の類似事業と統合・再構築できるか ※市で行っている類似の事業がある場合のみ回答	○	可能である	検討の余地がある	不可能である
④の説明：類似の事業はない。				
⑤近隣市の類似事業と比較して充実している事業か ※近隣市に類似する事業がある場合のみ回答	○	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実
⑤の説明：類似の事業はない。				
⑥東大和市独自の個性を出している事業か	○	市の特長、個性を出せる事業である	他市と同程度 個性はない	
⑥の説明：社会に開かれた教育の実現に向け、総合的な学習の時間等において、東大和市内外の人材を多く活用することができた。				

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書③

地域社会人材活用

事業】

記入日 令和 6 年 3 月 27 日

反省・今後の方向性

A) 来年度以降の課題や見直すべき点		※事業の実施を経て、反省・見直しすべきだと思ったことを記入してください。
①	学校から、多くの地域人材を活用したいとの要望があり、報償費を1校当たり7万円から8万円に増額する。	
②	サポートルームにおいても、地域人材を活用した教育活動を推進していく。	
③	成果指標として、令和6年度より、ScTN質問紙（ｽｸｰﾙ：School Transformation Networking：「主体的・対話的で深い学び」の実現状況を測る意識調査）の「授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる」「自分には、自分のやりたいことを応援してくれる身近な地域の大人がいる」を活用する。	
④		
⑤		

B) 来年（令和6年度）の取組予定		※事務予定または、改善事項を記入してください。
①	保健の授業における助産師による命の授業の実施	
②	総合的な学習の時間における車いすユーザーとの交流や紙漉き体験の実施	
③	体育の授業における走り方教室やアルティメット体験	
④	成果指標として、ScTN質問紙を活用	
⑤		

C) 上記Bの取組にあたって必要な調整・準備事務等		※記入日時点で必要と考えられる準備事務について記入。
①	教育委員会より学校へ、地域社会人材について情報提供する。	
②	各学校において、地域社会人材を活用した授業準備に向け、調整を行う。	
③		
④		
⑤		

事業コスト

(6 年 2 月 29 日 時点)

予算科目	款	10	事業番号	16	予算名称	学校と地域の連携等推進事業費
	項	1				
	目	3				

R5予算額及び決算額

※会計年度任用職員に係る経費（報酬等）は記入不要です。

単位：円

R5予算額		R5決算額(暫定)		【参考】R4決算額	
事業費合計	1,500,000	事業費合計	974,140	事業費合計	0
積算根拠		積算根拠		積算根拠	
7 報償費	1,050,000	7 報償費	720,100		
10 需用費	450,000	10 需用費	254,040		
財源内訳		財源内訳		財源内訳	
一般	1,500,000	一般	974,140	一般	
国		国		国	
都		都		都	
市債		市債		市債	
その他		その他		その他	